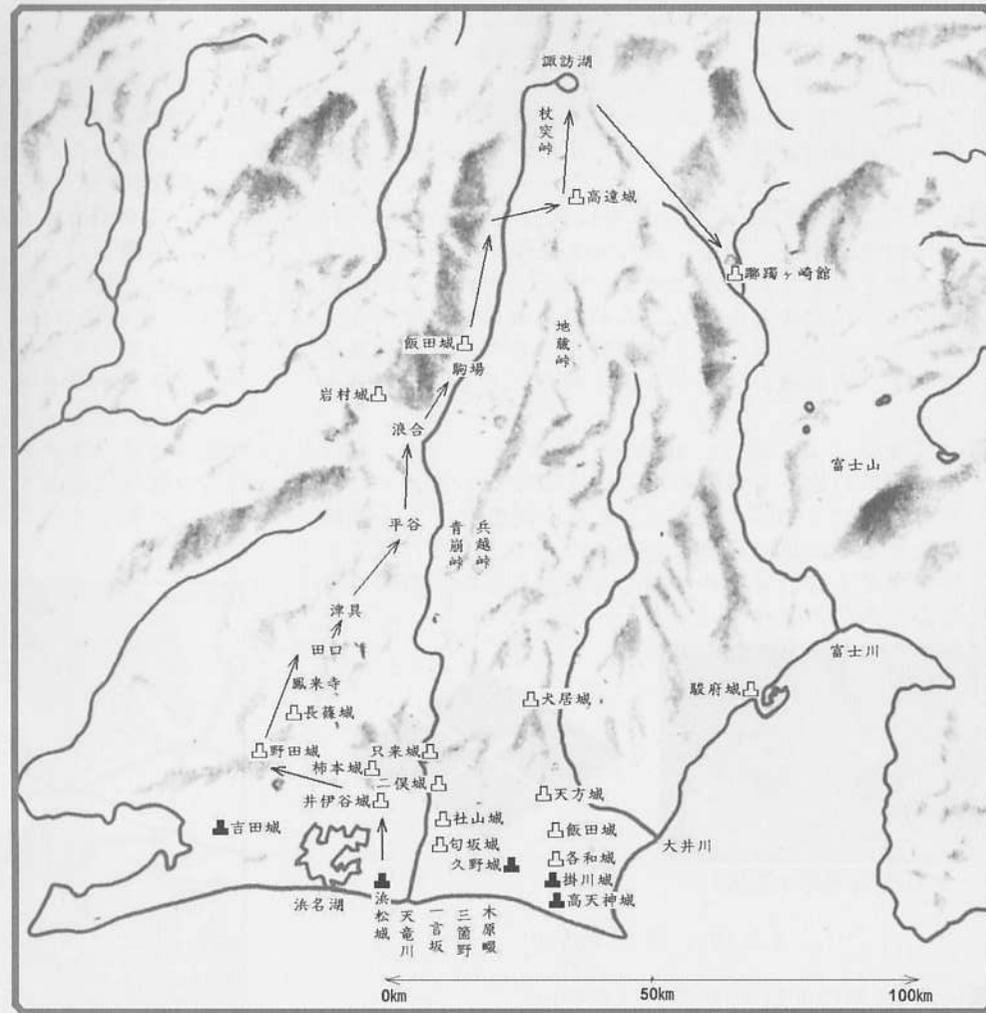


武田騎馬軍団進軍経路①



武田騎馬軍団進軍経路②

家康が負けた……三方ヶ原の戦い

戦国乱世を終わらせ、泰平の世を開いた徳川家康。その75年の生涯の中で、唯一の負け戦として知られるのが「三方ヶ原の戦い」である。

- 元龜(げんき)3年(1572)天下の形勢は緊張していた。岐阜を本拠に都を抑え天下統一をねらう織田信長。徳川家康は本国三河から浜松に進出したばかりの弱小

名。

- 一方その東には信濃(長野県南部)を抑えて天下を窺(うかが)う武田信玄。
- 家康は信長と同盟を結び、信玄に備えていた。
- 元龜3年10月3日、武田信玄は地上最強と言われた武田騎馬軍団、25,000人の精鋭をひきつれて甲府を出陣。
- 10月10日～12日ごろ、信玄本隊は犬居城に到着。犬居城の天野景貫は武田側に属しており、遠江侵攻の案内役となった。
- 10月14日ごろ、只来城は勝頼により占領。

- 信玄の本隊に先立ち、9月29日、先ぼう隊として山県昌景を大将とする約5,000人が甲府進発、徳川領の東三河に向かい柿本城・伊平小屋城を攻撃占領。
- 10月14日～15日ごろ、信玄本隊により天方城・飯田城・各和城・句坂城など次々に占領。途中、「木原暇の戦い」・「三箇野の戦い」・「一言坂の戦い」等があった。
- 10月20日、信玄本隊より少し遅れて別働隊として、秋山信友隊5,000人が織田信長領の東美濃に侵入し、11月14日岩村城を無血開城。

■ 二俣城攻めは勝頼を大将として、信玄本隊・山県隊を合わせ、総勢25,000人で攻め、落城までに約2ヶ月かけた。(10月19日~12月19日)

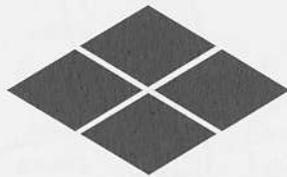
二俣城内の兵力は600人のみ、規模は小さいが地形的に要害堅固な城であったが、水路・水脈を断たれ開城。

■ 12月22日の早朝、信玄の軍勢は天龍川を渡ったあと、秋葉街道を南下。途中、西に向きを変え欠下のあたりから坂を上り三方原台地上に出た。そのまま西に向かい追分に到着した。ところが突然浜松城を背にして進路を北にとった。ろう城作戦をとるつもりの家康を挑発し、浜松城からおびき出し野戦にもちこむ作戦をとった。

■ 家康はここで迷う。籠城か、追撃か。しかし、「信玄が城下の近くを通るのに、手も出せないようでは、笑いものにされてしまう」。また、同盟者である織田信長を苦境に追い込まないために、できるだけ信玄を浜松城近くに引きとめておく必要があった。結局慎重論より武門の意地をとった。



(古戦場犀ヶ崖碑)



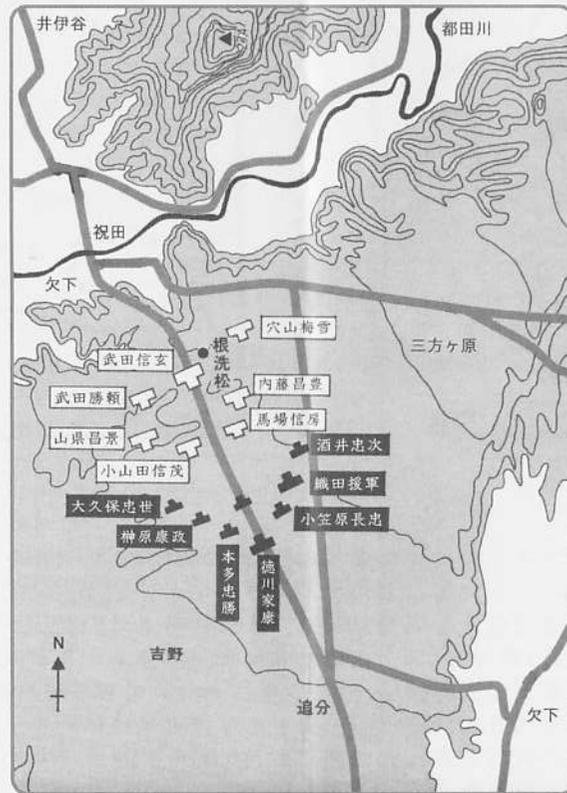
「三方ヶ原の戦い」

- 元龜3年12月22日(新暦2月4日頃)
- 武田信玄52歳。武田軍約25,000人
- 徳川家康31歳。家康軍約11,000人。うち織田信長援軍3,000人。軍勢の数では圧倒的に不利であるが、家康は地理を熟知しており有利な条件もあった。「祝田の坂を下りはじめた頃に追いつき、坂の上から信玄軍を攻め落とそうと」考えた。ころあいを見計らって浜松城を出たところ、敵の裏をかいたつもりが、その裏をかくられてしまった。信玄軍が待ち構えていたのである。
- 両軍が三方原台地に布陣を終えたのは午後1時頃。武田軍は中央突破に適した「魚鱗(ぎょりん)の陣」徳川軍は敵を押し包むための横に広がる「鶴翼(かくよく)の陣」。

の陣」。数時間にわたる対峙(たいじ)に火をつけたのは武田軍の突然の投石攻撃で始まった。徳川軍はこの挑発行為に乗せられて激怒し、突進してしまった。

■ 家康が布いた「鶴翼の陣」は、兵力が優位にあるときは包圍殲滅(せんめつ)隊形として威力を発揮するが、少ない兵力では威力が発揮できない。

戦端が開かれると、たちまち両軍入り乱れての激戦となった。徳川軍もよく迎え撃ち一度は押し戻すものの、武田軍の猛攻は止まらず徳川軍はずるずると後退。そこに信玄の下知を受けた武田奇襲隊が右を廻り背後から家康の本陣を急襲した。怒濤のような信玄の攻めに、総崩れとなった。退却の途中、討ち死にしていた夏目吉信、本多忠真、鈴木久三郎など、多くの武将たちの犠牲によって家康は浜松城に逃げ帰ることができた。追撃してきた武田勢は、犀ヶ崖付近で陣を構えた。



(三方ヶ原合戦両軍配陣図)

■ 大久保忠世・天野康景等が、城内に残っている鉄砲を集め、犀ヶ崖付近の間道を通って武田軍の背後にまわり夜襲をかけた。武田勢は不意打ちに逃げ場を失い、闇夜(やみよ)で地理不案内のため、人馬もろとも犀ヶ崖の谷底に転落した。

■ 武田軍は浜松城攻撃を中止、軍勢を西に向かわせた。

徳川軍の戦死者約1,000名。家康の大敗北だった。しかし、その4ヶ月後、勝利者武田信玄は三河の陣中で病に倒れ53年の生涯を閉じ、天下への野望は夢と消えた。



(夏目吉信顕彰碑)

■ 一方、家康は戦国最強とうたわれた武田信玄の大軍に果敢に立ち向かったことで、その評価を高める結果となった。こうして最大の危機を乗り切った家康は、無謀な戦いで多くの将兵を死なせたことを教訓とし、いかにして勝つか、信玄の戦法を積極的に学んだ。

■ その3年後、家康は再び信長と連合し、信玄の子、



武田勝頼を「長篠の戦い」で破った。

やがて武田家は滅亡。反対に家康は着実に力を伸ばし、数々の戦いを勝ち抜き、天下を治めついに徳川幕府を開いた。

■ 戦国時代の武将を描いた一枚の絵。家康はこの「三方ヶ原の戦い」での惨めな自分自身の姿をあえて絵師に描かせ、座右におき終生の戒めとした。

参考文献

- 小和田哲男著 「三方ヶ原の戦い」
- 高柳光寿著 「三方原之戦—武田信玄の戦略」